

018

受験 番号					
----------	--	--	--	--	--

令和7年度 獨協医科大学医学部  
一般選抜（後期）第2次試験

## 小論文試験問題

（試験時間60分）

### 注意：

1. 開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないでください。
2. この冊子は4ページです。他に下書用紙1枚と解答用紙1枚を配付します。
3. 問題の内容に関する質問は原則として受け付けません。  
ただし、印刷が不鮮明な場合は、挙手の上監督員に申し出てください。
4. トイレに行きたいときや気分が悪くなったときは、黙って挙手をしてください。
5. 受験番号を所定欄すべてに記入してください。
6. 解答は必ず配付された解答用紙に記入してください。問題冊子、下書用紙への記入事項は採点の対象としません。
7. 試験終了後、問題冊子、下書用紙、解答用紙のすべてを回収します。
8. 試験開始後30分間および試験終了前5分間は退出できません。

（令和7年3月10日実施）

試験問題は次頁から

問題 次の文章を読んで、以下の間に答えなさい。

### 知的メタボリック症候群

人間は欲深に生まれついている。なんでもとり入れないと生きていられないのを支える大切な本能的能力である。

何でも食べられるものはいくらでも食べるが、よくしたもので、食べものが不足しているから、食べすぎるということが少ない。

ところが、食べものが豊かになって、食べただけ食べると、過食になる。それにかまわず大食していると、病気になる。先年から、メタボリック症候群と呼ばれるようになったが、ぜいたくな、栄養価の高い食べものを食べていれば、だれでも、生活習慣病にやられる。

それを防ぐために、適当な運動がすすめられ、散歩が見直されたりする。余分なカロリーを消費する方法として、歩くことはもっとも身近な運動である。

いくらカロリーをへらすのがよいといっても、余計なカロリーを摂取する過食をそのままにしておいては、あまり効果がない。食べ過ぎを抑制するのがまず先であろう。しかし、食欲をコントロールするのは、散歩するよりずっと難しい。

糖尿病になると、食事制限を受ける。一日、何カロリー以下にする必要がある。これがたいへんつらいことになるのは、食欲というものを抑えることが困難だからである。こどものときから、腹いっぱい食べるのを望ましいことと思って育っている。食事制限はたいへんな努力を要する。

とにかく、病気には勝てない。食欲を抑えて、余分のカロリーを捨てることを迫られる。近年になってあらわれた考え方である。

知識についても似たことがおこりつつあるが、まだ多くの人々の注意をひくまでになっていないようである。

こどものときから、勉強とはものを覚え、知識をふやすことと思込んでいる。学校へ通う期間が短い時代、いくら知識をふやしてもよい、多々ますます弁ず、である。覚えたことは忘れないよう心がけるのは当然である。知識がふえるのは、たのしいものである。知識は多ければ多いほどよい。みんなそう思っていたのである。

戦後、教育が普及し、昔は百人に一人か二人であった大学進学者が、二人に一人となった。決して悪いことではなく、世の中が、知的になってきたのだと言ってよい。

その反面、知識過多がおもしろくないことに気づかず、知識が多ければ多いほどよいという、かつての常識は消えない。知識欲というものも食欲といくらか似たところがあつてとにかくすこしでも多くとり入れようとするのは、本能的である。

役に立つか立たないか、そんなことにかまっていられない。とにかく知識はできるだけ多くわがものにしたいという気持ちが強い。十何年も、やみくもに知識欲をはたらかせていると、知識過多になるが、それをさらにつづけると、知識過多症になる。私はこれに知的メタボリック症候群という名をつけた。

肉体のメタボリック症候群と同じで、異常であり、病気としてもよい。

もの知り、博覧強記、博学多識などかつて言ったのは、こういう知的メタボリックだったのである。

知的メタボリックは、自分でものごとを考える力を失うことが多い。知識が頭の正常なはたらきを妨げるらしい。「何でも知っているバカ」(内田百閒)になるおそれが少なくない。

いわゆるメタボリックは、減量や散歩などによって改善するけれども、知的メタボリックはすこしやっかいである。いったん頭に入れたものである。知識は容易には少くすることができない。

### 覚えるより難しい、忘れること

余計な知識は、すてなくてはいけないが、これは覚えるよりずっと難しい。すこしくらい心掛けても、余剰知識をカットすることはできない。

どうするか。思い切って、すてる、のである。

いちばんよいのは、忘れることだが、生まれたときから、覚えることはよいこと、忘れることは、よくないこと、と思いつまされているから、うまく忘れるなどという器用なことのできる人間は、はなはだすくない。

昔の人は、いやなことを忘れるのに、大酒をのんだ。ヤケ酒である。さめて、どうしてここにいるのか、わからなくなったりすれば、いやな思いをすてるのに成功したことになる。

ヤケ酒が有効だといっても、毎日、酔っ払ってられないから、いやなことをすてるのはやっかいである。それで、睡眠の力を借りる。目ざめたあと、頭がすっきりして気分爽快なのは、眠っている間に、多くのことを忘れ、すてているからである。

はげしく体をうごかし、汗を流すというのも、過剰なものをすてるのに有効である。スポーツは頭をよくしてくれるかもしれない。散歩はスポーツとは違って、頭の掃除をしてくれるので、ヨーロッパの哲学者が散歩をしたのであろう。

ふつうの人間が、知識以上に欲しているのがカネである。カネをためることを生きがいにしている人がきわめて多い、というのは世の中が豊かになったからである。せつせと蓄える。こどもの教育のためとか、病気になるたときの治療のためとか、一応の目的をもっていることも多いが、かなり多くが、カネをためることがたのしくて、おもしろくて、蓄財にいそしむのである。ためようと思っても、たまらないのがカネであるが、使うあてもないカネがたまったというケースもすくなくない。

使い途がなくても、財産がふえるのはそれ自体、たのしいことである。いい気になっていて、カネボケになる人がふえる。

ものごとの判断がつきにくくなるのが、カネボケの特色である。いまの時代、カネボケの高齢者がきわめて多いらしい。

それを一部、明るみに出したのが、先年来の“振込め詐欺”である。

もっているカネを、使い途がなくて、もてあましてるとき、助けて！ という電話を受ければ、やれ、カネの出番があらわれた、と思うから、とんでもない話を真に受けて大金をすてる。

いくら警察などが注意を呼びかけてもカネバカには通じない。使い途のわからないカネをためるのがよくないのである。欲に目がくらむ、というが、余分のカネは持ち主の頭のはたらきを悪くする。カネバカはどんどんふえている。それに対して警告を発するものもないから、ひとまず、天下は泰平である。

### うまくすてる精神を

手に入れる。ためる。ふやす——というのは、半ば、本能的である。努力しなくてもそうするようになっている。もっとも目立つのはカネであるが、文化が進むにつれて、知識も価値をもつようになって、過

多症をおこすが、それに対する有効な方法を知らない。そのために賢い人が愚かになり、富めるものが心貧しくなるのである。

逆の、すてる原理の発見が求められる。

カネが使い切れないほどたまった、といって喜ぶのは、かわいいが、幼稚である。カネにしばられて、人間らしい生き方ができなくなってしまう。

自分のことを自分でしていくのに必要なカネをためるのは、美德である。使い方のわからぬ金をふやして喜ぶのは、道楽である。人間を墮落させるおそれがある。

思い切って、すてる、ことを考えなくてはいけない。

価値あるものをすてるのは不合理であるが、カネにしても知識にしても、過剰な部分はすててやらないと、人間の進歩はない。

消費はかつてはよくないことと考えられていたが、いまは奨励される。消費は世のため人のためにカネを使うことで、すてるのとは意味合いが違うが、もっているものを手放す点はすてるに通ずるところがある。

寄付というのも、すてることだと認める必要がある。日本の金持ちは寄付をしない傾向が強い。うまくすてる精神が乏しいのかもしれない。

寄付を、喜捨の気持ちで行なえば、より純粋なすて方に結びつく。

若いうちは、わからなくてもしかたがないが、それなりの年齢に達したら、喜捨の心をいただくようになりたい。それによって、小さな人間も大きくなることができる。

知識をうまくすてるのは、カネの喜捨ほどかんたんではないが、新しい人間になることができる。知識をすてて新しいものを発明、発見することで、人間は、進化するのである。

外山 滋比古 著

「学校では教えない逆転の発想法 おとなの思考」(株式会社リベラル社) 2023年6月24日発行  
出題の都合により一部改変

問1. 本文を200字以内に要約しなさい。

問2. 本文の内容について、あなたの考えを400字以内で述べなさい。